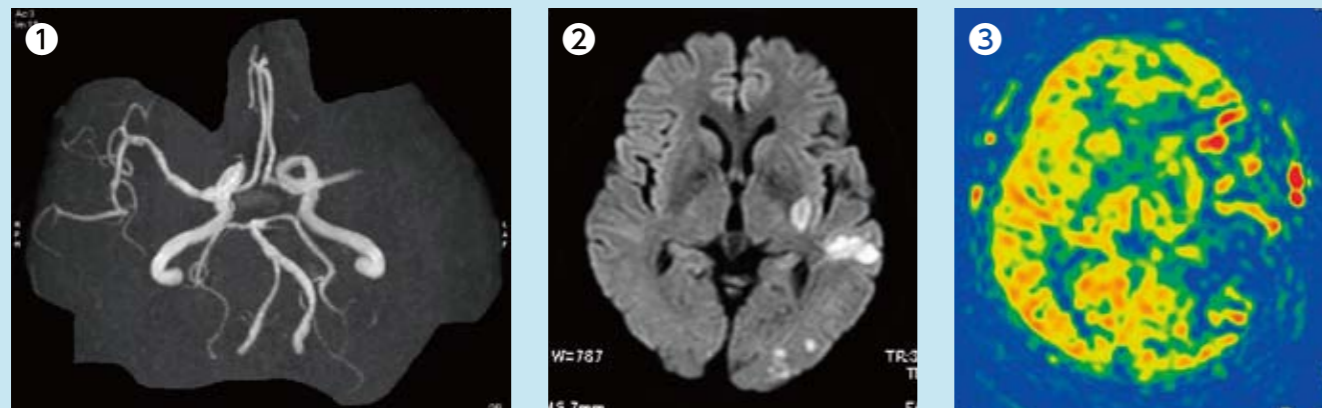
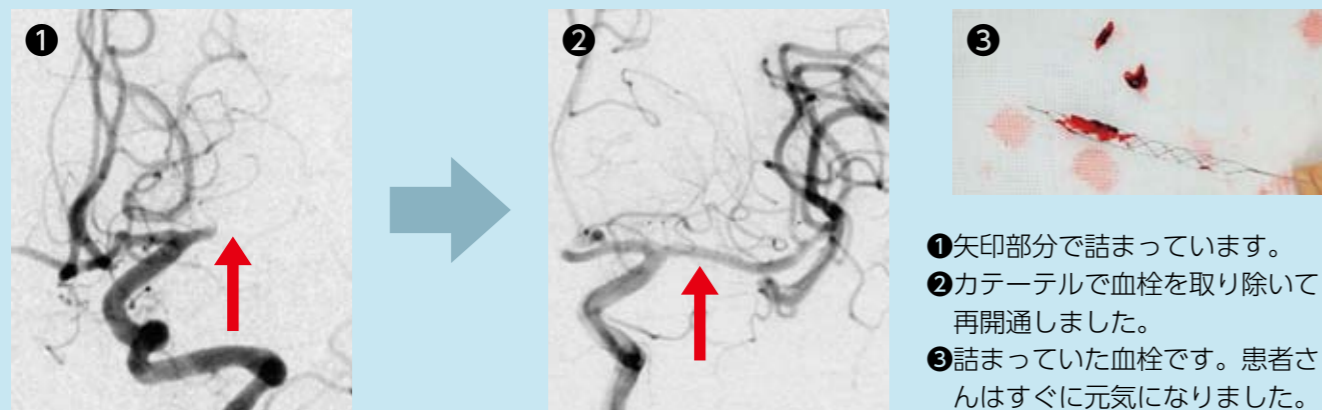


新型MRIの画像

従来は、血管画像(①)と脳梗塞病変画像(②)を撮影し判断していましたが、新しいMRIでは脳血流の画像(③)が撮影でき、短時間で脳血流が低下していることを評価できるようになりました。



カテーテルによる血栓除去



- ①矢印部分で詰まっています。
- ②カテーテルで血栓を取り除いて再開通しました。
- ③詰まっていた血栓です。患者さんはすぐに元気になりました。



脳卒中センター 24時間対応

～1人でも多くの命を救うために～

適切な検査を素早く
 脳梗塞の治療は発症早期であればあるほど回復の可能性が高く、すぐに治療を開始することが大切です。
 ▼唇や顔の動きが悪い
 ▼緩んだ唇の端からよだれがこぼれる
 ▼目を閉じることができない
 ▼片腕が上がらない
 ▼手の動きが弱く物を持てない
 ▼片足の力が入りにくく傾いて歩けない
 ▼足が動かず立てない
 などの症状が突然起きた場合は、脳卒中が起きた可能性がとて高いので、様子を見ないで、すぐ救急車を要請してください。

東濃地域における脳卒中治療の中核を担う
 脳卒中センターは、市民の皆さんの、さらには東濃地域に住む皆さんの生命と健康を守るために、これからも昼夜問わず、最先端の脳卒中治療を提供していきます。

24時間・365日
 市立総合病院は、1月から24時間365日体制で脳卒中患者を受け入れる「脳卒中センター」を設置しています。
 脳卒中は脳の血管の病気で、脳の血管が詰まって脳が壊れる脳梗塞、脳の血管が裂けて脳が壊れる脳出血、脳の動脈瘤(血管のこぶ)が破裂するくも膜下出血に大別されます。日本では5人に1人が脳卒中を発症し、9人に1人が亡くなっています。また、寝たきりになった方の4割近くが脳卒中の後遺症です。中でも脳梗塞は脳卒中の75%を占め、ひとたび脳梗塞になるとその部分の脳は壊れ、壊れた脳は回復せず重い後遺症が残ります。脳梗塞の治療は発症から4時間30分以内が最も有効とされていますので、症状を改善し後遺症を残さないようにするためには、できるだけ早く病院で検査し、診断・治療をすることが大切になります。

今年1月、市立総合病院に24時間・365日体制で脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)の診療を行う「脳卒中センター」を開設しました。また、最新のMRIを導入し、8月から本格稼働しています。市立総合病院は、東濃地域における脳卒中治療の中核を担っています。
 問 市立総合病院総務課 (☎2111・内線2851)

新型MRIを導入
 脳卒中の診断においては、CTやMRIが重要な役割を果たします。市立総合病院ではフルデジタルテクノロジーを採用した最新のMRIを導入し、8月から本格稼働しています。新しい装置は、従来装置では造影剤を使用しないと撮影できなかった脳血流情報について、造影剤を使用しなくても画像化できる機能を備えており、脳梗塞部位のより精密な診断が、短時間かつ患者さんの身体的な負担が最小限で可能となりました。



米沢医師 野田医師 北島医師

土岐市立総合病院 脳卒中センター

院長補佐兼脳神経外科部長 野田伸司
 脳卒中センター部長 北島英臣
 脳神経外科医長 米沢慎吾